

受託研究 三宅村郷土資料公開・保存事業

期間：2022年5月30日～2023年3月31日

[所員] 角南聡一郎 安室 知

三宅村郷土資料の公開と保存事業

— 民具整理の着手 —

角南 聡一郎

2014年度に中央水産研究所（現水産資源研究所）所蔵古文書目録の作成にともなう調査として初めて訪れて以来、翌年6月の田上繁所長（当時）によるゼミ調査を経て、2016年度より受託研究となった三宅村郷土資料の公開と保存の業務は順調に回を重ねた。2020年冬に始まった新型コロナウイルスの感染拡大によって、同年度の調査は中止を余儀なくされたものの、翌2021年度には調査を再開し、『三宅島郷土資料館所蔵七島文庫目録』を刊行することができた。

2022年度からは民具類の整理に着手すべく、参加を希望する院生・学生を公募し、歴史民俗資料学研究科博士後期課程の余璋、博士前期課程の呉珂、歴史民俗学科の陳志聡の3名が応募、参加することとなった。調査の打合せ・勉強会を行い、三宅島の地理や歴史、民俗に関する概要とこれまでの調査の経緯を説明した後、民具調査のための手順と方法について確認した。今回の調査では、三宅島郷土資料館に収蔵されている民具類の全体とその配置をまずは把握し、大まかな作業計画を策定することを目標とした。作業手順は以下の通りである。

- 手順① 三宅島郷土資料館の民具類の収蔵場所全体を確認し、整理の対象とする民具を特定する。
- 手順② 部屋ごとに整理対象とする民具の配置のスケッチをとる。
- 手順③ 民具1点ごとの調書（資料整理カード）に、現場で確認ができる情報を記入し、法量を測定する。



写真1 収蔵室の民具



写真2 民具の法量の計測

手順④ 整理用カード（単語学習カードを利用）に整理番号を記入して、民具にタコ糸で結びつける。

手順⑤ 写真撮影（原則として四方・上下から）を行う。

*上記の作業を学生間で交代して、整理の行程全体を各自が把握できるようにする。



写真3 民具に取付ける整理札の作成

2023年3月6日（月）の22時30分に東京竹芝棧橋を出港し、翌7日早朝に到着、休憩（仮眠）の後、三宅島郷土資料館に赴いた。三宅村教育委員会の中込哲氏と今回の調査の概要について打ち合わせを行い、上記の手順に沿って調査を開始した。8日・9日終日と10日の午前まで作業を継続し、整理作業におおよその目途を付けることができた。3月10日（木）の午前中には後片付けを行い、今後の計画について中込氏と相談した。来年度も民具調査を継続して行い、2024年度の調査終了後には民具目録を作成すると同時に、島内で成果の報告会を行うことも検討することとした。その後、中込氏にご案内いただき、1983年の噴火によって溶岩に飲み込まれた阿古集落の様子を見学した後、三池港より東京竹芝棧橋行きのフェリーに乗船して帰途についた。帰校後は資料整理カードや写真の整理を行って、2022年度の業務は終了した。



写真4 民具の写真撮影

■ 2022年度の活動

○三宅島郷土資料館の資料整理作業 2023年3月6日～10日 三宅島郷土資料館
角南聡一郎・越智信也、余瑋・呉珂・陳志聡（院生）